

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

令和4年度全国調査の文科省標準化得点：国語97、算数99以上

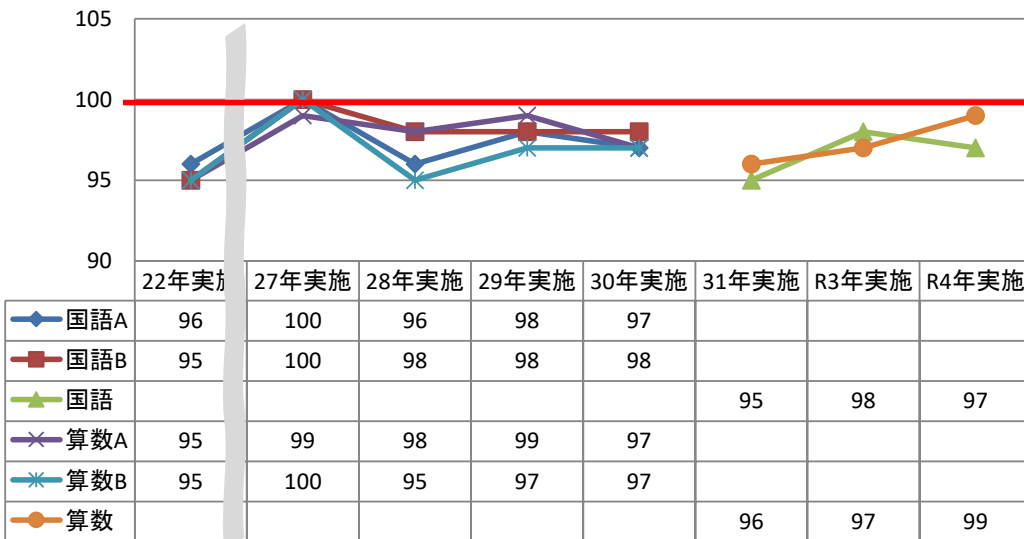
3.指標に向けての取組

- 習熟度別少人数授業の実施(算数科全学年、指導方法工夫改善教員の活用)
- 1時間の終末場面で授業を通して「分かったこと」「できるようになったこと」等を振り返り、ノート等を書く活動の位置付け
- 理由や根拠とともに自分の考えを書いて交流する学習活動の実施
(見通し、自力解決の段階を中心に)
- 家庭学習に既習の内容を組み入れた繰り返し学習の機会の充実及び家庭学習系統表に基づく自学を含む平日・週末課題の確実な実施

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国 語	算 数
本校	97	99
嘉麻市	98	97
全国	100	100

推移



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

- 国語・算数ともに、指標に達することができた。しかし、全国に達することができなかった。
- 国語の正答率は、「漢字を正しく使う」(70.0%・県比+1.9p)、「漢字や仮名、配列に注意して書く」(75.0%・県比-4.5p)及び「話し言葉と書き言葉を理解する」(85.0%・県比-0.3p)で、県と同等か、わずかに達しなかった。これは、家庭学習における繰り返し指導が効果的であったと考える。しかし、「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」等の正答率が低かった(県比最大-11.2p)。これは、物語教材において登場人物の関係性やその場面の行動や気持ちについて叙述を基に考えること、文章に対する感想や意見を伝え合うなど、目的や意図をもった「読む活動」「書く活動」の不十分さや筋道立てたり関連付けたりするなど考える力を身に付けさせる指導が不十分であると考えられる。
- 算数科の正答率は、「百分率で表された割合を分数で表す」(81.7%・県比+10.7p)など[変化と関係]の領域で高い結果であった。これは、習熟度別少人数授業と家庭学習における繰り返し指導が効果的であったと考える。しかし、「ポイントを計算する場面」(51.7%・県比-17.2p)や「希望する遊びの割合を調べる」(56.7%・県比-11.5p)などの問題では課題が見られた。具体的な生活場面において学習したことを活用して課題を解決する問題を設定し、児童に学習の必要感をもたせる工夫が必要である。
- 国語科では短答式(55.6%・県比-8.6p)、算数科では記述式(53.8%・-8.0p)の問題の正答率が低い。題意を的確に捉え、身に付けた知識・技能をしっかりと働かせて取り組むことが課題である。
- 記述式の無解答率について、国語は2問が15%と16.7%、算数は4問中3問が8.3%である。難しい問題に対して諦めずに取り組むことが課題である。

6.各学校における今後の取組

- 国語科では、説明や解説、物語などを読み、内容を説明したり分かったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動を仕組み、相互に交流させるようにする。
- 算数科では、知識・技能の定着を図るために、毎時間のまとめでは練習問題に取り組みせ、形成的評価を重視した児童の学びの見取りを丁寧に行う。また、各学年各単元の終末における習熟段階で指導方法工夫改善教員等を活用した個別指導を充実させる。
- 算数科・国語科とも、「書く活動」を位置づける際には「なぜ」「どうして」「どのように」「どうすれば」などの児童が思考を働かせる観点を明確にした発問を意図的に行い、考えたこと・伝えたいことを書かせるようにする。また、学習の振り返りでは、「分かったこと」「できるようになったこと」「分からなかったこと」「もっと知りたいこと」などを具体的に書かせるようにする。
- 児童が家庭学習に意欲的に取り組むことができるように、課題配付時に問題に触れさせて自力解決の見通しをもたせたり解き方のヒントを助言したり、「ヒントあり」「ヒントなし」の2種類の課題プリントを用意して自己選択させたりする。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。